

「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、
しかも豊かに受けるためである。」(ヨハネ 10.10)



タリタクム日本運営委員
シスター永瀬 あゆみ(サレジアン・シスターズ)

教皇フランシスコは、「いつくしみの特別聖年」を呼びかけたとき、次のように招かれました。「今日の世界には、どれだけ不安定で苦しい状況があることでしょうか。どれだけの傷が、もう声をあげることでできない多くの人の肉体に刻まれていることでしょうか。それは豊かな人の無関心によって彼らの叫びが小さくかき消され、それ以上声が出せなくなってしまったからなのです。……侮辱を与えることになる無関心、心を麻痺させて新しいことを求めさせないようにする惰性、破壊をもたらす白けた態度、そうしたものに陥らないようにしなければなりません。世界の悲慘さと、これほど多くの尊厳を奪われた兄弟姉妹の傷をよく見るために、目を開きましょう。(イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔 15)

すべてのいのちのつくり主である神は、一人ひとりがいのちを受けるため、しかも豊かに受け、尊厳をもって生きられる公平な世界を、イエスを通して示されました。しかし、現状は神の思いとはほど遠いように思います。世界、日本、自分のまわりに目を向けたときどうでしょうか？ 人のいのちが大切にされ、尊厳をもって生きられる公平な世界と言えるのでしょうか？

いのちを脅かしているもの、格差と貧困、差別、紛争、気候変動、人身取引、搾取、これらがある限り、すべての人が尊厳をもって生きられることはありません。悲慘な状況を耳にすることはあっても、直接にかかわることがないかもしれませんが、不当な扱いを受けている多くの人々が日本にもたくさんいます。わたしに今できること、それは、関心を持つこと、知ること、祈ることから初めて、小さな行いであっても何かしら行動に移すこと、それが、搾取、差別をなくすこと、人身取引対策を実践していることにつながるのです。



(タリタクムアジア第4回地域会議[タイ、2022年8月]にて、シスター弘田とともに)

タリタクム日本 春のオンライン・セミナー2023
「日本人とフィリピン人の親をもつ子ども(JFC)とその母親への人身取引」

タリタクム日本運営委員
シスター長谷川 和子(聖心会)

2023 年 5 月 13 日(土)14:00～16:00、上記のテーマでセミナーが行われ、団体に視聴された方々を含めて 200 名近くが参加されました。今回は、JFC 母子に関わる人身取引の問題が浮き彫りになったいきさつ、現状と事例、将来への課題等についてお話を伺いました。

初めに、J-CaRM 委員長の山野内倫明司教様より挨拶があり、「昔、私が30歳の頃、ローマで初めてフィリピン人会員に会い、テルミナ駅の近くの教会では、大勢のフィリピン人がいて、非常に驚きました。1997年頃、私は、あるフィリピン人司祭から、日本である晩遅く、若いJFC母子を危機から救出し、すぐに飛行機で帰国させた時の怖い体験を聞きました。その時、私はJFC母子や外国籍の方々のために、戦っていこうと思いました。神の国の実現を願っています」と、語られました。

セミナーの前半では、「JFC が抱える問題と人身取引」という題で、NPO 法人 JFC ネットワーク事務局長の 伊藤里枝子さんから、この NPO 法人設立までのいきさつと、今抱えている問題について、また人身取引のケースの紹介がありました。まず、JFC とは、J(Japanese)、F(Filipino)、C(Children)の人々のことで、80 年代に日本に来たフィリピン女性が在留資格を終え、子どもの国籍を持たないまま帰国した JFC 母子は、年々増加しています。1993 年 60 人の弁護士たちが立ち上げた「JFC 弁護団」や 1994 年「JFC 市民が関わるネットワーク」を経て、「JFC を支えるネットワーク」が日本で設立され、フィリピンでも1998年「スリガヤ ハウス」事務所としてマニラに設立されています。これは、JFC 母子対象者の75%がフィリピンに在住しているためです。彼らの多くは、父親の認知や面会、養育費、国籍取得、離婚請求等を求めています。2009 年に新国籍法が改正され、多くのフィリピン在住の JFC 母子は、法的諸条件により違いはありますが、日本国籍や在留資格を取りやすくなったという背景があります。

JFC ネットワークでは、その為に「法的支援」「生活・教育支援」「普及啓発活動」の3分野で活動中です。コロナで一時的に活動が制限されて、ZOOM を通してのみの活動になりましたが、思いがけず、ネットを通してフィリピン全土に活動が広がりました。



人身取引のターゲット

しかし、ここに目をつけたのは、様々な悪徳仲介業者(エージェント)です。日本への査証、日本国籍取得、就労、宿泊先の斡旋という手口で、JFC 母子を誘い、莫大な借金を背負わせて結果的にだまし取る方法です。その上、業者は、「あなたは契約書にサインしている」、「手続きはフィリピンでした

ので、日本の仲介業者とは関係なく、我々は集金するだけだ」と主張します。また、一人の青年の例も紹介されました。ようやく国籍取得がかない、日本で働き始めたのに、職場の給料から勝手に、月々3万円、不明な名目で総額50万近く借金分として搾取されようとしていたのです。2017年にタリタクム日本が設立された頃から、JFC母子の新しい問題として、人身取引の被害事例は後を絶ちません。

今後の課題

どこに住んでいても、JFCが日本に移住したいというのは、当事者の権利であり、安全に来日し、就労することは、日本人の父の国への憧れもあり、JFCの自己確立などのために大切な機会となります。しかし、どのように安全な来日が確保できるかが大きな課題です。JFCの日本語教育の必要性や当事者の権利意識の啓発、さらにはブローカーや搾取的な仲介業者を通さずに、直接教会と繋がって来日できる仕組みがどのようにできるかを、模索しています。2022年からは、JFCの「国籍オリエンテーション」も始めています。



セミナーの後半は、「カトリック内外のネットワークによる岐阜事件への取り組み」について、ビスカルド篤子さん（カトリック大阪教区社会活動センター・シナピス）から伺いました。「岐阜事件」（動画「狙われるJFC」上映）は、新しい人身取引としてニュースに取り上げられた実例です。宿泊先、就職先を仲介業者に斡旋されて日本に来た女性たちが、劣悪な宿泊先、業種の異なる接客業を長時間強要され、JFC母子5名が、ある日近くのカトリック教会に深夜、逃亡してきた事件で、警察が関わる事件でした。この事件では、さらに60人の人々が同じ仲介業者から同じ手口で搾取されていたことが判明しました。彼らを救済するために、彼らにいくつかの教会、修道会のシェルターに転々と宿泊してもらいました。また、子供たちの学校も決め、自立に向けて生活保護等の行政支援も受けました。

ベトナム難民、南米日系人等を受け入れて、一時、大阪神学院の建物を全て宿泊所にしたこともありました。シナピスは、①岐阜県女性相談センターから、人身取引の被害者を保護する公的支援でカトリック教会と協働し（業務委託）、②2017年にはASEAN諸国の研修（テーマ：人身取引）の会合に参加し、③フィリピン領事館と岐阜県警と、今も連携し協力関係を持っています。長い活動の経緯から、カトリック教会が、行政と共働する新しい姿が紹介され、その後、質疑応答がありました。

最後に、シスター弘田しずえ（タリタクム日本運営委員長）が、今回は、シスター方の参加が多かったことを感謝されました。又、「JFC母子の問題は、無責任な男性の行動でJFCの子どもたちが『人間として存在が無視され、否定されているという重大な人権の問題である』と指摘されました。「活動報告から、カトリック教会が、彼らを『暖かく迎える』場となっていたことに教会のシノダスの姿を見えています。これからも、私たちがサマリア人に倣って、傷ついた人を『見て』『知って』『近づいて』『身がかがめ』『命に寄り添う』使命を生きる恵みと自由を願います」と祈り、終わられました。

シェルターリストの見直しにあたって

タリタクム日本運営委員
シスター狩野敦子(礼拝会)

過去を振り返ると 2017 年、女子修道会に「シェルターリストを作ります。ご協力いただける方はアンケートにご記入ください」とお願いしました。その理由はいくつかの修道会は生きる場を失った外国人に良きサマリア人のように宿を提供できるような手立てをお持ちでしたが、それをお互いに知らなかったの
で、情報を共有する必要性が出てきたからです。

結果として、それぞれの修道会からご回答をいただき、生き場、行き場を失った女性たちが安心して過ごせる場が迅速に提供されるようになりました。「わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し…(マタイ25章35節)」と、イエスが語られ、実際に行動されたことが 2000 年経った今も実現したのです。ただアンケートには、「シェルター」と表現するのではなく「緊急に宿泊できる場所」と、表記しました。プロフェッショナルな関り、設備が必要だという先入観が先行するのを避けるためでした。

「修道院に空き部屋はあるけど、どうやって活用したら良いか？」と、それぞれの修道会が悩んだり、未来に向けて活動を始めようと模索したりしておられました。そして実際、タリタクム事務局に相談が入って、どこの修道院に頼むかを考えるために、このリストは大いに役立ちました。そのリストによって女性の命と新たないのちが救われました。相談を聞き、関係者で相談し合い、更に支援が可能かどうかを聞き、皆の支援の輪が広がっていったのです。それから 6 年が経過しました。コロナ蔓延により、「緊急に宿泊できる場所」を探すタリタクムの活動は止まったかのように見えました。しかしコロナだからこそ、多くの問題が発生し、また目には見えにくいところに隠れていたのです。



イメージ写真

ポストコロナで今一度、緊急宿泊リストのアップデートを始めます。これについて、わたしたちは何度も考え、推敲し、協力しました。「なぜ外国人だけ？」という質問も出てきます。外国籍であるがゆえに、日本の公的支援には適応されないという弱い立場におかれます。その結果、声なき叫びをあげておられます。その叫びに耳を傾け、一緒に歩むことをタリタクムは進めていきます。そしてシェルターでの滞在期間にエンパワメントのための活動ができれば…と夢を見ています。

一人で見る夢は夢に過ぎないが、共に見る夢は実現に向かって動くという言葉が脳裏によぎりました。アンケートを前にして、共同体でお考えいただければ幸いです。

タリタクムで、出前授業を始めました！

タリタクム日本運営委員
山岸素子

みなさんは、「人身取引」と聞いて、どのようなことをイメージされるでしょうか？

「どこか遠い国で子どもが売り買いされているのが人身取引で、自分とは遠い世界の話だと思っていた」「技能実習制度が問題になっているのは知っていたけれど、人身取引と関係あるなんて思っていなかった」「日本の若者が性的な被害に遭っているとは聞いていたけれど、自分が被害者になる可能性はゼロだと思っていた」などなどの声が聞こえてきます。しかし、人身取引は実際には、私たちのごく身近なところで起きています。大事なことは、一人ひとりが現状を知り、関心をもって関わっていくことです。私たち一人ひとりの意識と行動がなければ、人身取引が終わることはありません。

また、日本に暮らす移民、難民、外国にルーツを持つ人々のことを、みなさんはどれだけご存知でしょうか。日本には現在、400 万人を超える、移民、難民、外国ルーツを持つ人々が暮らし、日本はすでに多様な人びとが共生する移民社会になっているのですが、地域社会や職場、家庭、教育の場などでさまざまな人権侵害に遭遇し、マイノリティであることによる差別をうけている実態はあまり知られていません。このような人権侵害や差別をなくすためにも、現状を知ったうえで、行動していくことが大切です。

そこで、タリタクム日本ではこのたび、「出前授業」を始めました。出前授業には、「人身取引コース」と「移民難民コース」があります。

「人身取引コース」は、タリタクムユースチームが担当します。「人身取引って何だろう？」から始まり、日本でも起きている人身取引について学び、自分にできることは何かを考えていきます。アクティビティを通して体験しながら学ぶ形式で、小学生や中学生など比較的低い年代の子どもにも対応しています。



「移民・難民コース」は、タリタクムの専門家が担当します。日本に暮らす移民や難民の実態を学び、自分にできることは何かを考えていきます。こちらのコースもアクティビティやグループワークを通して学ぶ形式で、中学生や高校生など比較的高い年代の子どもに主に対応しています。

4月28日に開催された日本カトリック学校教育委員会主催の「校長・理事長・総長管区長・司教の集い」でも、タリタクムから出前授業の説明とモデル授業の発表をさせていただきました。出前授業は、カトリック校以外でも、小教区や修道院などでのセミナーや講座にもご活用いただけます。ご関心がある方は、ぜひ右のQRコードからお問合せ・お申し込みください。



2023 年「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」(2月8日)
国際タリタクムによる「祈りのリレー」と「晩の祈り」式次第冊子へのご感想



祈りのリレー視聴に先立ち、送っていただいた冊子を使用して晩の祈りをいたしました。静かに黙想しながら、高齢のシスターたちと共に、お祈りができました。これからも「尊厳をもって歩む」ことができますように！

サレジアン・シスターズ



2/8のオンラインの世界各国の集い、祈りに参加でき、修道会姉妹一同感謝いたしております。ともに祈りをささげることによって共同体の祈りが広がり深められました。地区、共同体ごとに同時に祈りのリレーに参加の様子を写真にいたしました。

ベタニア修道女会



「麦畑のみはりばん」(ベス・フェリ著)という絵本の中に、いつも一人ぼっちで麦畑に立っている「かかし」が木から落ちたカラスのひなを助けるために、自分の背中支えの枝を折って救い上げ、育てていく…人身売買や難民救済等に対して自分は何ができるのかを問われた本でした。

クリスト・ロア宣教修道女会



教皇様の「立ち上がって外に出ていきなさい」という呼びかけを何度も聞いたり、読んだりしても、日常のさまざまな思い煩いに引きずれている私たちにとっては、一時的には心を動かされても、自分には遠いところの話で、「その人のために祈りましょう」で、終わってしまいがちです。

老齢で、幾つもの病気を抱えている私にとっては、「もう何もできないのだから」と諦めがちになってしまいますが、この冊子を手にして、編集に携わった方々の思いを心に深く感じ、他の人々に伝えていきたいなと思っております。

店頭で「すごく安い」と思って購入する物や、食物などは、児童労働や人身取引の犠牲の上に成り立っているのだと分かるのですが、一方では、できるだけ自分の欲しいものは安く手に入れたいと思ったりします。

私たちはどのようなことに取り組んでいけばよいのでしょうか。修道会としてもっと、真剣にこの点を深めていかなければならないと思いました。

汚れなきマリア修道会



若者の声 「人間の尊厳への歩み」

タリタクム日本ユースアンバサダー
Nayeli del Rocio Soto Ortiz (ナナ)

タリタクムユースの一員であることは、日本での私の新たな人生に欠かせない大切な要素です。

私は2021年8月に来日し、翌年の3月まで宮城県でALT(外国語指導助手)として働いていました。その間、幸運にも仙台カトリック教会と「心の港」という団体から、温かい保護を受けることができました。この期間に出会った司祭やミSSIONナリーの方々には心から感謝しています。彼らは、私が日本に落ち着くために、とても力になってくださいました。

これらの共同体の中で、私は他のカトリックの若者と出会いました。その中には、技能実習制度で来日したベトナムの若者もありました。この日本の制度は、若者たちが重要な知識や技術を身につけ、帰国してから活かせるようにすることを目的としています。しかし現実には、彼らの多くが不当な条件や搾取に直面しています。そうしたひどい不正行為や人身取引を身近で目の当たりにし、私はこの状況を改善するために何かしたいと思うようになりました。

その後2022年6月に、諸事情により東京に引っ越し、そこでタリタクム日本ユースのメンバーに出会いました。彼らの理念と、特に外国人労働者のために、日本での労働における正義を推進することに重点を置く彼らの姿勢は、私の心に深く響きました。

それからタリタクム・ユースアンバサダーの研修プログラムに参加し始め、志を同じくする世界中の若者とつながるという貴重な機会を得ました。私たちは、世界に前向きな変化を起こしたいという思いを共有していました。この充実した経験は、より良い未来への希望で私を満たしました。

とはいえ、日本からの参加者である私たちは、主に次の3つの要因により、大きな課題に直面しています。

1. 日本のカトリック人口は比較的少なく、そのために固有の障壁が生じ、支援ネットワークの活動が制限されている。
2. 私たちのほとんどが外国人であり、日本語を流暢に話すことができないため、コミュニケーションの壁に直面している。
3. 日本の官僚主義が、時として私たちの活動の妨げ、前進を妨げる。



こうした問題があっても、私たちは壁を乗り越えるためにともに努力しています。メンバーの数を増やし、障壁に真っ向から取り組むプロジェクトに積極的に取り組んでいます。私自身にとって、タリタクム日本ユースアンバサダーの一員であることは、大きな変化をもたらす体験でした。タリタクムからの温かい支援と指導は、特に日本のような国で、カトリック信者の若者が、日常生活で直面する課題を乗り越える力を与えてくれます。私はタリタクムとともに活動できることを誇りに思います。そして、タリタクムの継続的な支援によって、変化をもたらす触媒になりたいと願っています。

脱プラスチックのオリジナルグッズを作成しました！

紙ファイルの表紙には、タリタクム日本の新しいロゴと、人身取引被害者の守護聖人である聖バキータのイラストを入れました。裏面は白紙です。



ボールペンは、石灰石から生まれた素材(LIMEX)を用いています。タリタクムのシンボルである手のひらとタリタクム日本の文字が刻まれた面の裏側には、「人身取引に終止符を！」という文字が刻まれています。握り心地が柔らかく、UNI 製品なので書き味も滑らかです。



紙ファイルは2枚で50円、ボールペンは1本 100 円以上のご寄付にて頒布いたします。ご希望の方は事務局にご連絡ください。

人身取引反対世界デー(7/30)にオンライン祈りの集いを開催しました！



7月30日は国連が定めた「人身取引反対世界デー」です。この日、タリタクム日本はオンラインで祈りの集いを開催しました。

今年は、国際タリタクムによって作成された「2023 年人身取引に反対する祈りと啓発の日、晩の祈り」式次第邦訳の一部に沿って祈りをささげた後、さいたま教区の川口教会でのベトナム語のミサと、その後に行われた青年グループ「マイコイ」の活動や法律相談、医療相談の様子をお伝えしました。

募金のお願い

「タリタクム日本」では、人身取引被害者の救済活動や啓発活動など今後の活動のための募金をお願いしております。ご協力よろしくお願いいたします。

郵便振替口座 00110-8-560351

加入者名 日本カトリック難民移住移動者委員会

「タリタクム日本活動支援」の欄に☒を入れるか、

通信欄に「タリタクム日本」と明記してください

日本カトリック難民移住移動者委員会

電話:03-5632-4441 FAX:03-5632-7920 E-mail: jcarm@cbcj.catholic.jp